

令和元年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

I 年度目標と実績

II 診療実績

III 教育実績

IV 研究業績

V 従事者名簿

令和元年度目標と実績のまとめ

目標

①医療安全対策の継続実施

★医療安全のための定期点検・安全対策の周知

②今後の役割と施設機能の方向性の検討

★診療体制の検討

★備品の計画的な更新

★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

実績

①医療機関としての安全管理体制整備

◆附属診療センターヒヤリ・ハットの減少(H30年2件, R元年0件)

◆安全対策のための環境整備(転倒予防対策・感染症予防対策)

◆医療安全研修会の実施

(7月24日 ウィメンズメンズヘルスの現状と展望～安全管理に関して～ 愛下由香里先生

12月4日 医療機関におけるソーシャルメディアのリスクマネジメント 積山和加子先生)

②教育および研究のための体制の充実

◆実績 初診患者 198名 再診患者 4,524名 リハビリテーション 1,843件

学内実習 105名 学内者見学 191名

◆コミュニケーション障害学科・作業療法学科・理学療法学科臨床実習施設

◆年報の公開

◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設(平成30年1月1日より継続中)

三原市サービスケア会議にリハ助言者として出席(2回)

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

◆診療体制の整備(看護師・非常勤職員)

◆備品の計画的な更新(オートクレーブ, トレッドミル等)

◆附属診療センターの広報

教員免許状講習 シティカレッジ 公開講座等

◆オープンキャンパスでの情報発信(見学者404名)

◆学外者の研修の受け入れ

学外者見学142名(うち専門職種研修者 1名)

来年度計画

①医療安全対策の継続実施

★医療安全のための定期点検・安全対策の周知

★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施

②今後の役割と施設機能の方向性の検討

★安定的な体制維持にむけての診療機能の検討

★備品の計画的な更新

★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

令和元年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
三原市	100	71	533	2,868
尾道市	47	38	188	740
広島市	6	1	22	111
福山市	27	22	153	565
三次市	0	0	0	0
呉市	0	0	3	5
世羅郡	1	1	16	75
豊田郡	0	0	2	2
竹原市	3	1	16	172
廿日市市	0	0	0	0
東広島市	0	0	7	24
府中市	6	5	23	63
安芸郡	1	0	3	23
神石郡	0	0	2	7
庄原市	0	0	1	1
関東	1	1	1	1
山口	5	0	8	25
岡山	1	0	4	21
関西	0	0	3	14
九州	0	0	1	5
合計	198	140	986	4,722

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	7	3	10
3歳	4	2	6
4歳	13	7	20
5歳	34	11	45
6歳	35	46	81
小1	14	42	56
小2	11	43	54
小3	2	50	52
小4	6	61	67
小5	6	59	65
小6	6	52	58
中1	6	41	47
中2	0	58	58
中3	5	33	38
高校生	2	44	46
19歳～20歳	1	84	85
21歳～30歳	4	19	23
31歳～40歳	9	13	22
41歳～50歳	3	19	22
51歳～60歳	3	25	28
60歳以上	27	76	103
合計	198	788	986

③初診患者の主診断名

診断名	人数
自閉スペクトラム症	63
注意欠如多動症	31
知的発達症	34
限局性学習症	11
発声・嚥下・構音障害	22
難聴	12
その他の耳鼻科疾患	5
高次脳機能障害・認知症・脳血管疾患	5
脊髄・神経・筋疾患	1
整形外科疾患	1
骨粗鬆症	9
その他	4

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
認知系障害学概論Ⅰ	2	30	通年	12	失語症のある患者さんと言語聴覚士のコミュニケーション場面をビデオ撮影し、映像を授業で活用した。また、スクリーニング検査および標準失語症検査場面を観察・記録させ、評価報告書などの作成データとして活用した。
認知系障害学概論Ⅱ	3	27	通年	10	失語症および高次脳機能障害のある患者さんのスクリーニング検査、失語症に関する総合検査、精査などの場面を観察・記録させ、評価報告書などの作成データおよび訓練計画を考えるためのデータとして活用した。
認知障害治療学	3	30	前期	1	作業療法学科学生を対象としてCT撮影法やその読影法を学んだ。
認知系障害学演習Ⅰ	3	27	4～7月	6	失語症や高次脳機能障害のある方に対する検査方法や症状を具体的に理解させるために、検査場면을提示した。
発達系障害学演習Ⅰ	3	27	4～7月	2	K-ABC2発達検査の検査結果の解釈演習・レポート作成課題の基となる検査データについて、当診療センターでの自験例を改変して提示した
発達障害治療学実習 (作業療法学科)	3	31	後期	10	発達障がいをもつ患者さんの協力を得て、学生に作業療法場面の見学、補助を行った。学生3名前後で1名を担当し作業療法のプロセスを学習した。
コミュニケーション障害 診断法	2	30	後期	8	ビデオで提示する事例について、本診療センター内施設を利用して作成した
発達系障害学演習Ⅱ	3	27	後期	9	・田中ビネー知能検査の解釈演習・レポート作成課題の基となる検査データについて、当診療センターでの自験例を改変して提示した ・評価報告書作成演習・訓練計画立案演習において、演習で提示される模擬患者の諸検査を、当診療センターでの自験例を改変して提示した
聴覚系障害学概論Ⅰ	2	30	11月	1	聴覚障害のある患者さんに参加いただいて学生との交流会を行ない、学生が聴覚障害について理解を深める機会とした。

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
理学療法概論Ⅱ	1	31	12月	1	1年次生を対象とし、理学療法士だけでなく言語聴覚士、診療放射線技師といった多職種の業務や実際の治療について見学・説明を行い、理解を深めた。
医療ソーシャルワーク	2	30	令和2年1月21日	1	診療センターの施設・設備を見学し、診療センターの機能を学んだ。また、リハビリテーションの方法や専門職の役割について理解を深めた。

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
臨床実習Ⅰ (コミュニケーション障害学科)	2	30	通年	5	ビデオで提示する事例について、本診療センター患者の訓練の様子を本診療センター内施設を利用して作成した
臨床実習Ⅰ (コミュニケーション障害学科)	2	30	通年	36	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき学生2～3名が1組になり言語聴覚療法の見学を1組当たり年間3回実施した。
臨床実習Ⅱ (コミュニケーション障害学科)	3	27	通年	96	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、言語聴覚療法についての評価・計画立案・言語聴覚療法実施・報告書作成などを内容とする実習を、学生1人につき年間8回実施した。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	31	通年	16	学生1～2名ずつの単位で、神経内科外来診察(原田医師)に同席して見学実習を行い、診療終了後に質疑応答形式のマンツーマン授業を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	31	通年	31	学生1～3名ずつの単位で、小児科外来診察(林医師)に同席して見学実習を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	31	通年	11	学生1～4名ずつの単位で、耳鼻科外来診察(田口医師)に同席して見学実習を行い、診療終了後に質疑応答形式のミニ授業を行った。
総合臨床実習Ⅰ (理学療法学科)	4	1	7～8月	4	総合臨床実習Ⅰの補充実習として、該当学生1名が、カルテおよび担当PTから情報収集、理学療法評価、理学療法治療の見学および補助を行った。
小児科診療見学	3	2	10月	3	卒業論文計画に向けて、小児科診療の実際の場面を見学した。
小児科診療見学	4	1	10月	1	作業療法と関連する診療の学修のために、小児科診療の実際の場面を見学した。
基礎臨床実習Ⅱ (理学療法学科)	3	1	3月	3	基礎臨床実習Ⅱの補充実習として、該当学生1名が、カルテおよび担当PTから情報収集、理学療法評価、理学療法治療の見学および補助を行った。

【卒業研究】

卒業論文タイトル
運動イメージと血糖値の推移
音声検査時の指示等の違いによって検査結果は変わるのか
学童・思春期の腎疾患患者のセルフケアを促す看護に関する文献検討
自閉症的傾向の幼児の偏食に対応する母親に関する研究の動向
大学生における発達障害と平衡機能
“チャットグループ”による失語症者の心理・社会的側面に対するアプローチ—写真・ネット検索の活用—
動画を用いた失語症者のAAC能力評価(試案)
三原市放課後児童クラブの実態と支援者のニーズ
Water resistanceにおける訓練効果について—一声の高さの検討—
Water resistanceにおける訓練効果について—ストローの深さおよび径について—

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Effects of musical experience on the autonomic nervous system activity of people listening to different types of sound.	International Medical Journal 26 (1) 43-45	Iida T, Nishioka R, Kawabata N, Kunishige M, Tagawa A, Iida K, Shingu K, Sameshima M, Harada T	平成31年2月
Knowledge extraction of adaptive structural learning of deep belief network for medical examination data.	International Journal of Semantic Computing 13 (1) 67-86	Kamada S, Ichimura T, Harada T	平成31年3月
小児糖尿病サマーキャンプの効果に関する文献検討	看護・保健科学研究誌 19(1) 58 - 65	引地明日香, 鴨下加代, 土路生明美	平成31年3月
Relationship between the characteristics of symptoms and esophageal hiatal hernia in aged patients.	International Medical Journal 26 (2) 84-85	Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Nitta K	平成31年4月
Impacts of high-resolution and high-cut music box audio on balance.	International Medical Journal 26 (2)118-121	Harada T, Aonaka J, Miyazaki H, Ishizaki F, Kodama Y, Ito S, Nitta Y, Miki Y, Yamamoto R, Niyada K, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Suehiro K,	平成31年4月
人工膝関節置換術後患者に対する『活動日記』を使用した作業療法実践の前後比較試験による効果検証	PAIN REHABILITATION 9(1):25-33	平賀勇貴, 久野真矢, 許山勝弘, 平川善之	平成31年4月
人工膝関節置換術後患者に対する『活動日記』を併用した作業療法実践の非ランダム化比較試験による検証	作業療法 38(2):178-186	平賀勇貴, 久野真矢, 許山勝弘, 平川善之	平成31年4月
Effects of using activity diary for goal setting in occupational therapy on reducing pain and improving psychological and physical performance in patients after total knee arthroplasty: A non-randomised controlled study	Hong Kong Journal of Occupational Therapy 31(1): 53-61	HIRAGAM Yuki, HISANO Shinya, NOMIYAMA Katsuhiko, HIRAKAWA Yoshiyuki	令和元年6月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
平均以上の知能を有する自閉スペクトラム症児における感情の理解—他者の音声のプロソディを手がかりにして—	聴覚言語障害学48(1) P1-10	堀江真由美, 梅原彩, 小島理恵子	令和元年6月
Relationship between characteristics of genetic study and Kartagener syndrome of elderly people.	International Medical Journal 26 (4): 316-317	Nitta K, Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Ito M,	令和元年8月
Relationship between the characteristics of a late-onset familial giant thyroid cyst and aspiration treatment.	International Medical Journal 26 (4): 318-320	Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Nitta K	令和元年8月
摂食嚥下リハビリテーションに関する情報共有の現状と課題-医療・福祉系大学生の認識調査	言語聴覚研究 16(3)261	矢守麻奈	令和元年9月
Temporal changes in semantic errors in a word-picture matching task in patients with acute aphasia.	International Medical Journal 26 (5): 363-365	Tsuda T, Ebara H, Nakamura H, Fujimoto N, Yoshihata H, Harada T	令和元年10月
Relationship between the characteristics of therapy goat and children and older people.	International Medical Journal 26 (5): 405-408	Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Numamoto H, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Kobayashi M, Ito M, Sugawara T, Nakabeppu K, Nitta K	令和元年10月
Relationship between characteristics of genetic study and essential thrombocythemia in aged patients.	International Medical Journal 26 (5): 438-439	Harada T, Ishizaki F, Miki Y, Nitta Y, Hayama M, Aonaka J, Kodama Y, Ito S, Yamamoto R, Niyada K, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Hiroto H, Ando J, Nitta K	令和元年10月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
The effects of exercise focused on ankle joint movement for postural instability in patients with Parkinson's disease: A pilot study.	Movement Disorders 34 (Suppl): 274	Taniuchi R, Harada T, Makino T, Togashi S, Matsukawa K, Hoshi T	令和元年10月
Augmentative and Alternative Communication Symbol Identification Task Performed by Individuals with Various Types Aphasia	Proc. of 14th International symposium on advanced science and technology in experimental mechanic. Paper ID:FL-403 6pages	Tetsuya Hiroto Tomu Danura Mineko Booka, Chisato Shibasaki Haruka Ikeno	令和元年10月
The mediating effect of psychological factors on the relationship between pain intensity and wrist joint function: a longitudinal study with mediation analysis	Disability and Rehabilitation	HIRAGA Yuki, HISANO Shinya, MIZUNOE Aya, NOMIYAMA Katuhiro	令和元年10月10 日 (Published online)
酸味冷却刺激が要介護高齢者の唾液嚥下に与える影響	言語聴覚研究16(4) 343-350	秋枝克昌, 矢守麻奈, 木村有花	令和元年12月
Mirror movement-like muscle hypertonia stroke model based on ipsilateral weight load.	NeuroReport, 31: 251- 255	Matsuura A, Karita T, Nakaso N, Kondo Y, Mori F	令和2年2月
脳損傷後運動障害における運動野の機能再編	理学療法の臨床と研 究, 29: 17-21	松浦晃宏, 荻田哲也, 森大志	令和2年2月
学習障害へのアプローチ～できないには、できない訳がある学習に苦戦している子どもたちの理解と支援～	子どもの心とからだ 28(4) 402-406	林優子	令和2年2月
ブローカ失語症者によるタッチパネルを使用した視覚シンボルのスクロール及び選択操作	電子情報通信学会誌 D Vol.J103-D No.3 139-143	檀浦斗夢, 廣富哲也, 坊岡峰子, 柴崎千里, 池野春香	令和2年3月

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
知的障害者の医療「知的障害援助専門員要請通信教育」テキスト	監修: 林 優子 分担執筆: 山西 葉子, 細川 淳嗣, 鴨下 加代, 土路生 明美, 島谷 康司, 日高 陵好, 藤巻 康一郎, 西田 征治, 山西 葉子他	分担執筆	公益財団法人日本知的障害者福祉協会(東京)	平成31年4月
知的障害援助専門員養成通信教育テキスト⑥知的障害者の医療	林優子, 余谷暢之, 原仁ほか, 鴨下加代, 土路生明美	分担執筆	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会	平成31年4月
作業療法の話をしよう	編集: 吉川 ひろみ 分担執筆: 高木雅之、古山千佳子、西田征治、山西 葉子他	分担執筆	医学書院	令和元年9月
言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版 第7章 言語と脳 ⑤ 脳科学と臨床	渡辺真澄	分担執筆	医学書院	令和2年2月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
障害物回避歩行への二重課題緩衝の影響と経頭蓋直流電気刺激の効果	松浦晃宏, 篠田亮平, 石川衛, 吉野開, 苅田哲也, 森大志	第17回歩行と姿勢研究会	平成31年3月
摂食嚥下機能の年齢変化と予防的嚥下リハビリテーションの必要性について(計9回)	矢守麻奈, 友久亮	世羅町高齢者サロン(7か所)講演会	平成31年4月～令和元年6月
<学会発表>愛媛県の言語聴覚士における音声に対する自覚的評価の検討	田口亜紀	第120回日本耳鼻咽喉科学会	令和元年5月
自閉症スペクトラムに対する第二世代抗精神薬の体重への影響	林優子, 土路生明美, 鴨下加代	第61回小児神経学会学術集会	令和元年5月
飲み込み機能の年齢変化とその対応(5回)	矢守麻奈	FM三原「教えてドクター」	令和元年5月
失語症者の階層性アプリの操作能力:ハード面からの分析	白川由莉奈, 坊岡峰子, 樋渡由依, 檀浦斗夢, 廣富哲也	第45回日本コミュ障害学会	令和元年5月
栄養サポートと摂食嚥下リハビリテーション	矢守麻奈	日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士研修会	令和元年6月
Step up 摂食嚥下リハビリテーション-臨床現場の疑問から-	矢守麻奈	(一社)和歌山県言語聴覚士会総会・学術講演会	令和元年6月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
リハビリテーションにおけるチーム医療	矢守麻奈	広島県立海田高等学校 出張講義	令和元年6月
摂食嚥下リハビリテーションに関する情報共有の現状と課題-医療・福祉系大学生の認識調査	矢守麻奈	第20回日本言語聴覚学会総会・学術集会	令和元年6月
聴力低下を合併した方への対応(シンポジウム ささまざまな障害を合併した症例に対するアプローチ)	長谷川純	第3回広島県言語聴覚士会学術集会	令和元年6月
放課後等デイサービス事業所における利用児の健康問題の現状と対応	鴨下加代, 土路生明美, 西村いづみ, 林優子	第66回日本小児保健協会学術集会	令和元年6月
失語症者の会話パートナーに求められるコミュニケーションスキル-アプリを含むAACの活用-	樋渡由依, 坊岡峰子, 白川由莉奈, 檀浦斗夢, 廣富哲也	第20回日本言語聴覚学会	令和元年6月
失語症者の会話パートナーに求められるコミュニケーションスキル-アプリを含むAACの活用-	白川由莉奈, 坊岡峰子, 樋渡由依, 檀浦斗夢, 廣富哲也	第3回広島県言語聴覚士会学術集会	令和元年6月
言語を主要な手段とする他職種と言語聴覚士とのコミュニケーションの共通点・相違点とは?	矢守麻奈	県立広島大学全学授業公開週間公開講義	令和元年7月
「飲み込みやすい」「食べやすい」のウソとホント	矢守麻奈	コミュニケーション障害学科高大連携公開講座	令和元年7月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
在宅・介護施設で行える摂食嚥下 リハビリテーション	矢守麻奈	備後脳卒中ネットワーク実務者 研修会	令和元年7月
7. 言語機能の評価とリハビリテー ション 4)統語	渡辺 真澄	日本高次脳機能障害学会 夏期 教育研修講座 Aコース「失語 症」	令和元年7月
家庭で役立つ認知症予防	原田 俊英	県立広島大学令和元年度高大 連携公開講座	令和元年8月
姿勢・運動への支援	島谷康司	平成31年度教員免許状更新講 習	令和元年8月
将来の社会参加を見据えた特別 支援教育～多角的なアセスメント と教育的ニーズの共有	林優子	令和元年度 広島県高等学校 教育研究会 定時制教育部会	令和元年8月
発達障害の診断と治療の実際	林優子	平成31年度教員免許状更新講 習	令和元年8月
中枢神経障害の基礎知識	林優子	平成31年度教員免許状更新講 習	令和元年8月
不適応行動に対する支援	吉岡和哉	平成31年度教員免許状更新講 習	令和元年8月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
The effects of sour cold tactile stimulation for saliva swallowing in the elderly requiring long-term care	Yamori M, Akieda K, Kimura Y	31st International Association of Logopedics and Phoniatics	令和元年8月
<講演>学童の嘔声と教師の音声酷使について～声の衛生指導とリハビリテーション～	田口亜紀	第61回広島市学校保健大会	令和元年8月
仮名語の音読における意味の関与	渡辺 真澄, 山崎 悠貴, 和田 歩美, 辰巳 格	第22回認知神経心理学研究会	令和元年8月
女子大学生・大学院生の飲酒行動とフラッシング反応との関連	土路生明美, 祖父江育子, 池内和代, 舟越和代	日本看護研究学会第45回学術集会	令和元年8月
Effectiveness of a Communication App for People with Aphasia-Effect of the advice to the conversation partner-	Mineko Booka, Fuko Kitamura, Tesuya Hiroto mi	31st World Congress of the International Association of Logopedics and Phoniatics(IALP)	令和元年8月
Investigation of risk factors affecting suffocation accidents in an acute care hospital	Higashiyama H, Yamori M, Tsuchimoto M	31st International Association of Logopedics and Phoniatics	令和元年8月
聴覚障害に対する支援	佐藤紀代子	平成31年度教員免許状更新講習	令和元年8月
発達評価の利用の仕方	堀江真由美	平成31年度教員免許状更新講習	令和元年8月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
学習に困難さをもった児童・生徒への支援	細川淳嗣	平成31年度教員免許状更新講習	令和元年8月
子どもの行動理解とその対応	山西葉子	平成31年度教員免許状更新講習	令和元年8月
The effects of exercise focused on ankle joint movement for postural instability in patients with Parkinson's disease: A pilot study.	Taniuchi R, Harada T, Makino T, Togashi S, Matsukawa K, Hoshi T	14th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Nice, France	令和元年9月
学習障害へのアプローチ～できないには、できない訳がある学習に苦戦している子どもたちの理解と支援～	林優子	第37回日本小児心身医学会	令和元年9月
認知機能水準と対応したアクティビティ適用モデルの開発	久野真矢	第53回日本作業療法学会	令和元年9月
人工膝関節置換術後患者における『活動日記』による活動のペーシングが疼痛と心理的要因および活動量に与える影響	平賀勇貴, 久野真矢, 許山勝弘, 平川善之	第53回日本作業療法学会	令和元年9月
発達障害をもつ子どもに対するラダー遊びの効果の予備的検討	檀 拓真, 善明勇二, 久野真矢	第53回日本作業療法学会	令和元年9月
食べる・飲み込む(摂食嚥下)機能の障害と言語聴覚士の仕事	矢守麻奈	県立広島大学保健福祉学部高大連携公開講座: 広島県立上下高等学校対象	令和元年9月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
味覚刺激の種類による嚥下行動の変化	矢守麻奈, 平田祐己	第64回音声言語医学会	令和元年10月
リハビリテーションにおけるチーム医療と言語聴覚士の仕事	矢守麻奈	広島県立廿日市高等学校 出張講義	令和元年10月
Factors affected dietary intake ratio in the elderly	Yamori M, Shibata Y	11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/ Oceania Regional Congress	令和元年10月
<学会発表>Water resistanceの訓練効果—ストローサイズにおける検討—	田口亜紀	第64回日本音声言語医学会	令和元年10月
演題発表に向けた特別講座	山西葉子	第37回日本感覚統合学会	令和元年10月
ハイレゾリューション・自然音を聴取したときの自律神経機能への影響について	宮崎洋幸, 原田俊英, 石崎文子, 二矢田勝行, 山本竜太	第72回 日本自律神経学会総会	令和元年11月
自然音(雨音・波)を聴取した時の自律神経機能への影響について	伊藤祥史, 原田俊英, 石崎文子, 宮崎洋幸, 二矢田勝行, 山本竜太	第72回 日本自律神経学会総会	令和元年11月
パーキンソン病の姿勢反射障害に対する足関節運動に焦点を当てた運動療法の有効性	谷内涼馬, 富樫将平, 松川佳代, 星井輝之, 牧野恭子, 原田俊英	第73回国立病院総合医学会	令和元年11月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
特別講演2: 自律神経障害と消化器症状についてーパーキンソン病診療から得られた知見を中心にー	原田 俊英	第112回日本消化器病学会中国支部例会・第123回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	令和元年11月
開口障害を主症状とする摂食嚥下障害を呈した若年性ADについて	北村伊津美, 矢守麻奈, 谷本佳弘, 池田学	第43回日本高次脳機能障害学会学術総会	令和元年11月
<講演> 音声障害の検査とリハビリテーション	田口亜紀	日本耳鼻咽喉科学会第33回専門医講習会 実技講習	令和元年11月
若年成人期の小児がん経験者の飲酒に関する文献検討	土路生明美, 鴨下加代, 祖父江育子	第17回日本小児がん看護学会学術集会	令和元年11月
3時間の足関節固定が皮質脊髄路興奮性と歩行に与える影響	荻田哲也, 松浦晃宏, 近藤至宏, 森大志	第24回日本基礎理学療法学会	令和元年12月
障害物回避歩行への二重課題干渉と背外側前頭前野刺激の効果	松浦晃宏, 篠田亮平, 石川衛, 吉野開, 荻田哲也, 森大志	第24回日本基礎理学療法学会	令和元年12月
<講演> 音声障害に対するリハビリテーション	田口亜紀	令和元年度 音声言語機能等判定医師研修会	令和元年12月
地域で子どもたちを育む～三原市における実践～	林優子	福山市医師会「障害福祉講演会」	令和2年1月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
<p>＜学会発表＞ 甲状軟骨形成術Ⅲ型後に音声治療を施行した変声障害の1例</p>	<p>田口亜紀</p>	<p>第35回西日本音声外科研究会</p>	<p>令和2年1月</p>
<p>やりたいこと再発見</p>	<p>山西葉子</p>	<p>令和元年度 尾道南高等学校 キャリア教育研修会</p>	<p>令和2年1月</p>
<p>発達が気になる子どもたちの自己肯定感を育む～子どもたちの瞳が「キラリ」と輝く瞬間～</p>	<p>山西葉子</p>	<p>令和元年度 児童発達支援センターあいあい講演会</p>	<p>令和2年1月</p>

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
動詞活用の乱れは、音韻、意味の乱れと、悪い友達	渡辺 眞澄	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成29～31年度
学齢期にある肥満症の発達障がい児への運動習慣に焦点を当てた看護介入の検討	鴨下加代	科学研究費補助金 基盤研究(C)	平成29～令和2年度
認知症者の音声による他者の感情の理解	堀江真由美	科学研究費補助金	平成30～令和2年度
言語障害児・者を対象とした包括的言語検査に基づいた認知神経心理学的評価基準の開発	川崎医療福祉大学 種村純(分担:渡辺眞澄)	科学研究費補助金 (基盤研究B)	平成30～令和4年度
認知レベルと対応した認知症アクティビティケア・マトリクスの開発	久野真矢	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成31～令和3年度
脳梁を介した大脳皮質一次運動野からの運動出力と二足歩行	森大志	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成31～令和3年度
発達性協調運動症児のタイプ分類と感覚統合療法による介入効果の検証	山西葉子	日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究	平成31～令和3年度
発がんリスク遺伝子とライフスタイルに着目した小児がん経験者の生活に関する探索研究	土路生明美	科学研究費補助金 基盤研究(C)	平成31～令和5年度

V 従事者名簿

医師

小児科	林 優子
リハビリテーション科	沖 貞明
内科	安武 繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	田口亜紀
神経内科	原田俊英
整形外科	住居広士
脳神経外科	森 大志

看護師

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵子
	青井聡美
	池田ひろみ
看護師（専任）	井上セツ子
	大亀昭子
医療事務受付	田坂春美
	村田智子
	山根亜樹

非常勤専門職員

医師	石崎文子
心理カウンセラー	山本映子
小児理学療法士	清水ミシェルアイズマン
公認心理師	辻 圭位子
臨床検査技師	児玉祐子
作業療法士	増田久美子
作業療法士	新庄玉恵

コメディカル

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵好
	青井聡美
	池田ひろみ
理学療法士	金井秀作
	田中聡
	小野武也
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	西上 智彦
	積山和加子
	高宮尚美
	金指美帆
佐藤勇太	
岡村和典	
作業療法士	吉川ひろみ
	小池好久
	久野真矢
	西田征治
	古山千佳子
	高木雅之
	吉岡和哉
	永吉美香
	山西葉子
	織田靖史
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	小澤由嗣
	長谷川純
	城本 修
	矢守麻奈
	佐藤紀代子
	渡辺真澄
	津田哲也
中村 文	
小畠 理恵子	
放射線技師	中村 悟
	飯田 忠行
社会福祉士	永野なおみ